

植物と人々の博物館メールマガジン

第 117 号 2024 年 11 月 12 日発行



カキ、アケビ、ミカン、リンゴと秋の果物が出てうれしい。このところサツマイモも、カボチャも美味しいと感じるようになりました。涼しくなり、秋野菜の生育も良くなったのですが、プランタのカブは3種の昆虫に食害されて、彼らのために作っているようです。クチナシは今年も大方食べられてしまい、毎日、可哀そうだが虫探しをしています。奥多摩はそろそろ紅葉が始まってきました。

植物と人々の博物館は社会的共通文化財である植物標本、民具、文献資料や書籍を整理して、森とむらの図書室を充実し、連携しているタイ・日本自然クラブの展示も再開したいです。ご利用くださり、整理もご一緒に手伝っていただければありがたいです。できることなら、これらの資料は公共の場所を確保して、広く公開し、ご活用願いたいです。借用中の倉庫はすでに雨もりしています。電気・水道などは有りません。

◎エプソン・インクジェット・プリンターEP-302の50番インクが余りました。もらってください。お送りします。播き時のディルの種子もあります。キュー植物園で買ってから、18年ほどプランタで育てて自家採取しています。スパイス、サラダ、スープに入れても美味しいです。育ててみませんか。

1. 植物と人々の博物館

○開館・作業予定日：11月14日および25日、12月2日、10:30~14:10に開館予定です。さく葉標本を選別し、民具、書籍の整理を行います。公共の知的財産として活用していただけるように、ご協力いただけると嬉しいです。ご協力いただける方があれば曜日や日時は調整できます。また、資料など閲覧したい方はご連絡いただければ、日程調整してご案内します。担当 木俣 kibi20kijin@yahoo.co.jp

主な作業：

- ①書籍 8000 冊・環境教育などの資料の整理
- ②日本、インド、タイなどの民具の整理
- ③展示の企画：たとえば、タイやインドの民具、自然文化誌研究会（学大探検部）50 年記念記録
- ④インド亜大陸、中央アジアの植物腊葉標本整理、台紙に貼る作業など、
- ⑤その他

○予定

1) 民族植物学ノオト第 18 号は 2025 年 3 月末に発行する予定です。年内にご寄稿ください。「環境教育学会史における認識の修正ないし異見」などを準備していま

す。また、自然文化誌研究会創立 50 周年の特集を加える予定です。これまでの記録集を整理しておきます。すべての記事 pdf は植物と人々の博物館ホームページ（下記：ミュージアムグッズの項）で読めます。意外に相当数の方々が読んでくださっています。 <http://www.ppmusee.org/goods.html>

○報告

- 1) これまでの映像記録、音声記録も保存しています。DVD の一部は中込ミさんに貸し出して、50 周年記念動画にさせていただけるようお願いしています。
- 2) 10 月 8 日はベトナムから一時帰国の伊能さんが来て、書籍整理を手伝ってくださり、原沢文庫はとりあえず、書架に納めました（写真）。
- 3) 10 月 28 日は書籍とスライドのメンテナンスをしました。

2) 電子書籍：

編集子の自選集 IV『雑穀の民族植物学—インド亜大陸の農山村から』は、順次、ネット上で公開しています。誤字、脱字、誤変換などは、年度内にもう一度、最終改訂する機会に修正します。第 4 章東インドの雑穀農耕文化複合を近日中に公開します。イネの栽培起原地として目されていた地域です。退職後 10 年計画で進めてきた探検記、自選集全 6 巻は未完成ですが、佳境に入りました。11 年目であるとは核心地域の南インド、新たな栽培起原と伝播仮説の提案です。全研究のまとめとして、日英文要約版（第 5 巻“Essentials of Ethnobotany”）を書き始めています。あと数年頑張ります。1000 ピースのジグゾーパズルのようで、とても面白く、複雑で難しいです。同時に、自選集 III『日本雑穀のむら』の補足として、40 年前の北海道調査における開拓農家やアイヌ民族の人々などとの対談テープの文章化を始めました。

自選集 VI『随筆集—生き物の文明への黙示録』に順次新作を追加しています。世間でもはやされていることとは、まるで異なった方向を目指してきたようです。変人奇人はこれでよかったと考えています。この世のゴールを守ることが役割なのでしょう。

3) 公式 HP：植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>に含めて民族植物学関係 HP：生き物の文明への黙示録 <https://www.milletimplic.net/>も国会図書館インターネット資料収集保存事業（ndl.go.jp）で毎年 1 回 7 月 20 日頃に収録されています。すべての記事は無料で公開しています。国会図書館の文献録には博士論文や科学研究費報告書などまで集成されており、ここに保存されている記事は記録として残りますので、とてもありがたいです。

4) 森とむらの図書室への寄贈など 現在所蔵する書籍や文献を整理して、ご利用していただけるように、蔵書リストと閲覧書架を整理充実しています。国内外の調査時におけるスライド 35mm も、こちらに置きます。リスト作りや番号貼りなど、ご協力いただけるとうれしいです。日本語の書籍は大方の整理を年度内に終えたいです。今

後は宮本文庫と、木俣文庫の整理を続けます。

<https://www.millettimplic.net/forestvil/forestvil.html>

5) 植物と人々の博物館基金 PPM Foundation

大口寄附ではなく、できるだけローテクで貯金箱に眠っている 1 円玉からする任意募金をお願いしています。これまでにゼミなどの会場で多くの方々からのご協力をいただきました。ありがとうございます。植物と人々の博物館へのご寄付あるいは整理作業のご協力を、よろしく申し上げます。自然文化誌研究会に基金費目を設けました。標本、民具、書籍などを社会的共通文化財として公共の施設で保存・公開するために、費目指定でご寄付をいただけるとありがたいです。今のところ、上野原市西原のびりゅう館に森とむらの会文庫を一括貸し出しています。

これまでに、多くの方にご寄付を頂き、感謝しています。郵便振込口座は下記です。

口座名義：特定非営利活動法人自然文化誌研究会

口座番号：00100-2-665768

2. 自然文化誌研究会（学大探検部：東京学芸大学自然文化誌研究会冒険探検部）

○予定の詳細は下記ホーム・ページをご覧ください。真冬のキャンプは、12月27日～29日、小菅村キャンプ場で開催の予定です。

○報告

1) 自然文化誌研究会（東京学芸大学冒険探検部）は来 2025 年に創立 50 周年を迎えます。今までの活動履歴を示す資料集をまとめています。とりあえず、下記で一部公開しています。大学探検部は全国に 20 ほどは有ります。

<https://www.millettimplic.net/archives/historyinch2025.html>

来年は創立 50 周年ですから、運営委員会で話し合いが始まりました（7月23日）。『50 年史』をまとめるとか、50 年間に関わった人々と思いを語り合う会とか、企画が出始めました。環境学習セミナー、公開講座、冒険学校や農学校、関係市民も皆さん、何千人もが場と時を共有した東京学芸大学彩色園で、1泊2日で過ごせたらよいかと思います。学大環境教育研究センターの了承も得られそうです。

2) 9月5日に、代表幹事はじめ8名出席して、準備会的な話し合いをしました。詳細は未定ですが、おおよその仮案です。

日時：2025年10月初旬、1泊2日

話題：冒険探検と食文化（仮題）

場所：東京学芸大学彩色園など。仮承認を得ています。

内容：写真展、談話会、記念誌の発行など

3) INCH 祭りライブは、10月5日～6日、小菅村キャンプ場で開催しました。

4) 10月16日に日暮里で、例年の成合会を行い、7名の参加でした（写真）。

3. 環境学習市民連合大学 Civic United University for Environmental Studies

環境学習市民連合大学は環境学習の理論と実践を普及啓発する目的で、ウェブサイトを作っています。環境学習・保全 NP04 団体と 3 個人から出発した市民大学です。主旨は、市民社会の自由、平等、友愛を基本原則として、自らが学び合う環境学習市民連合大学をリンク・ページとして、インターネット上で運営することです。ヨーロッパの 12 世紀ルネサンスの先駆けとなった原初の大学は学び合いたい人々の学習者組合でした。都市を旅しながら教師も学生も互いに学びの自由を守護し合い、共助していました。入学資格、試験、授業料、卒業資格はありません。どなたでも、学び合いたい人々が自由に集まるのです。アーカイブは次にあります。

<https://www.milletimplic.net/university/civicues.html>

○小金井環境市民会議

10 月 19 日に、小金井市役所で、環境政策課との話し合いがあり、5 名が参加しました。武蔵野公園・野川公園を分断する都道の工事計画に関する意見聴取です。両公園は東京衛星都市周辺を繋ぐ緑の回廊として計画されて、数十年、熱心な市民のボランティア保全活動もあって、自然修復が進み、多くの動植物は復活して生物多様性がとても高まってきました。

毎朝、散歩している編集子は、もう道路の延長は不要で、公園を保全するべきだとの意見を述べました。過去に東京都の環境保全関係の委員、小金井市の環境条例策定委員など、省庁の環境保全政策提案に参画もしていました。勝手な想像ですが、『千と千尋の神隠し』（宮崎駿）に出てくる電車は是政線、海は両公園、ハクは野川の精であると思います。多くの市民、都民、アメリカンスクールや ICU 国際基督教大学に通う人たち、乳幼児から、青少年、老人たち、イヌやネコたち、多くの人たちが日常を楽しんでいる公園です（写真）。いよいよ東京都は建造する方向に動いています。

○ 報告

1) 雑穀栽培見本園

①今年も宮本茶園の雑穀畑は継続しました。収穫や網の片付けなどの作業 10 月 20 日（日）に、宮本、安孫子、井上、内野、木俣で行いました。宮本さんは今年の暑さの下で、三度救急搬送され、佐野川での雑穀栽培講習会はこれで終了することになるでしょう。これまでのご参加、ご協力ありがとうございました。

②簡単な栽培や加工、調理法などは下記にあります。適宜、精白、製粉して、参加者の方に差し上げます。簡単な栽培、加工、調理についてお伝えします。不明なことがありましたら、メールください。

栽培法 [雑穀 ～とりあえずの栽培法 \(milletimplic.net\)](https://www.milletimplic.net/farmsklec8p.pdf)
[farmsklec8p.pdf \(milletimplic.net\)](https://www.milletimplic.net/farmsklec8p.pdf)

加工法 [雑穀類の加工方法 \(milletimplic.net\)](https://www.milletimplic.net)

詳細は『日本雑穀のむら』『雑穀の民族植物学』を検索してお読みください。

2) 第 35 回環境教育学会大会で一般発表（8 月 30 日）と自主課題研究（9 月 1 日）を行い、それぞれ、資料及び研究論文として投稿しました。

~~~~~

### 植物と人々の博物館（山梨県小菅村）：

館長：木下善晴、顧問研究員；安孫子昭二

研究員：木俣美樹男（東京、専任研究員、担当運営委員）、西村俊（石川、担当理事）、井村礼恵（東京、担当運営委員）、川上香（長野）、渡辺隆一（長野）、Sofia M. Penabaz-Wiley（千葉）、伊能まゆ（ベトナム）、大澤由実（神奈川）ほか

公式 HP：自然文化誌研究会/植物と人々の博物館 <http://www.npo-inch.ppmusee.org/>

事務担当幹事 メールマガジン発行：木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

民族植物学関係 HP:生き物の文明への黙示録 <https://www.milletimplic.net/>

エコミュージアム日本村／ミュージアム研究会（山梨県小菅村）：代表 亀井雄次（山梨小菅村）

自然文化誌研究会：代表 中込卓男（東京）、副代表 中込貴芳（東京）、小川泰彦（埼玉）

事務局長：黒澤友彦（山梨県小菅村）

伝統知顧問：守屋秋子（小菅村）、岡部良雄（丹波山村）

~~~~~

編集子独り言：

阪本寧男先生（95 歳）を 11 月 11 日に訪問しました（写真）。長らく京都大学海外学術調査隊の隊員、隊長として世界を旅してきました。東京学芸大学自然文化誌研究会の名付け親です。すでに 55 年来、変わることなく編集子の植物学の師です。



僕は社会的責任を必要以上に命懸けで果たし、老人として生きながらすでにお蔵入り、ゴーストになりました。マスメディア人が作った団塊世代という、デリカシーのない俗語には辟易してきました。自由な個人としては若者 Z 世代や氷河期世代と言われる人たちに、安楽で幸せな老人であることを非難されるいわれは一切ないです。それでも、不条理で不快な、汚濁のカリユグの末世に、余計なお世話ですが、それでもいまだに後世の人々のために、何とか希望を示しておきたいと願います。子供の時に

に決めた信念です。

奥多摩から小菅の湯に行くバス路線がなくなるそうです。現在は、奥多摩発、留浦経由で小菅の湯に行っています。大月発、猿橋経由で小菅の湯にも行っています。どちらの路線バスも、終点の小菅の湯まで乗っているのは、たいがい僕一人です。ごくまれに温泉に行く爺さんや婆さんがいます。自動車はそれなりにたくさん通過して行きますが、公共定期バス路線はいよいよ廃止になるのでしょうか。もう廃村だねという方もいますが、このくにの源郷を失ってしまうのは哀しいです。僕らはエコミュージアム日本村やホーム・ガーデン、雑穀街道普及会、東京学芸大学との社会連携協定も、地域振興のために人生の多大な労力を費やして行ってきたのです。ここに誇りと希望があるのだと思ってきました。こうした活動を継承、協力してほしいです。

数少ないうれしいニュースもあります。沖縄の竹富島にアワ畑が再生されて、喜んでもらったことです。僕がかつて地元で分譲を受けて、研究した種子です。現地で消滅したので、元に戻した種子です。次に引用しておきます。

「まるで弥勒様のような 🍀 竹富島の粟畑の主 ✨ 幸本さん。木俣美樹男先生が 1975 年頃に収集していた在来種の粟が、研究者の玉木陸斗さんよりもたらされ、今年、豊作に 🌾 🌾 🌾 幸本さんもおっしゃってましたが、粟が 3 本に分けつしているの、はじめて見ました!!スゴイ!!こちら半世紀ぶりの大復活です。ありがとうございます ⚡」

https://www.instagram.com/okinawagokoku/p/C8Cf4TbPjrW/?img_index=NaN

写真：

伝統知伝承顧問の守屋秋子さんが 91 歳になり、お祝いの赤飯をいただきました。岡部良雄さんも 91 歳になられました。岡部夫妻から、丹波山村特産のマイタケをたくさんいただき、きのこ飯、チーズ焼き、天ぷらにしました。10 月 17 日に丹波山村にお礼にうかがいましたら、自家製コンニャク、漬物、ソバや饅頭までご馳走に預かり、歓待してくださいました。皆さんにはお元気でいて、これからもいろいろ教えていただきたいです。館長の木下善晴さんも同じく 91 歳で、お元気です。

1) 伝統知伝承顧問の皆さん

中川智さん、仁さん兄弟と雑穀；毎年 20 品種を超える雑穀類を保存栽培してこられました（2023 年撮影）。



守屋秋子さん 91 歳（2024 年）の手作りおこわ



岡部良雄（91 歳）夫妻と手作りこんにゃく



2) 原沢文庫の整理状況；手前の箱はタイやインドなどの民具



3) 成合会の皆さん



4) 宮本茶園の雑穀見本園の片づけ、藤野在来陸稲とアワ



5) 野川公園、武蔵野公園を分断する都道計画に、毎朝散歩している僕も近隣居住者として、植物学者、教育学者として反対意見を市役所の担当課の聞き取りで述べました。住民はもちろん、市長も、市会議員の過半数も、地元選出都議会議員も反対表明をしています。



現在の都道、野川を横切る是政線の横並びに新たに延長する計画。



この家並みは移転させられる。



武蔵野公園の入り口から東八道路に繋ぐ。さらに府中に向かう。公園を左右に迂回しても数分、さほどの渋滞もない。不要な道路建造のために、地域住民の居住地を奪い、生活の場を一層の交通事故、騒音など、危険に晒すこととなります。

ここには野川公園、多摩墓地、ICU国際基督教大学、アメリカンスクールが隣接し、野川の段丘崖に沿って一帯一群を成す緑地。乳児、園児から学生、全ての年齢層、各地・海外からの来訪者が多く、美しい花々が咲き、ホタルなどの昆虫が飛び交い、カワセミなどの鳥が鳴き、自然的環境で散歩、環境学習、スポーツ、野外料理などを楽しんでいます。敗戦後数十年にわたり、ボランティア、環境保全団体 NPO、地域行政によって保全、育成されてきたのです。